

宮城大学 研究ジャーナル創刊まで ～編集後記にかえて～

宮城大学 学術情報センター長・出版部準備委員長
茅原拓朗

2021年3月31日、宮城大学研究ジャーナルが創刊いたしました。規程整備や編集作業でご尽力いただいた本学学術情報センター出版部準備委員、ジャーナル編集委員・査読委員の皆様、それらの作業をサポートいただいた事務局の皆様を始め、本学の成果を発信する独自の媒体を持つことの意義をご理解いただき後押しして下さった学長、理事の皆様、様々なご示唆ご助力をいただいた内外の皆様、そしてなにより日頃の研究成果をお寄せいただいた研究者の皆様にご心より感謝申し上げます。

学群単位で発行される紀要としては廃刊となっていた本学独自の雑誌媒体が今回装いも新たに創刊されたのは、学内の研究者からの要望の高まりを一つの契機とはしつつ、大手学術出版社による学術情報流通の寡占状態もたらす学術誌の価格高騰などの問題がいよいよ大学や個々の研究者の身にも迫るほど先鋭化していたことがなければあり得なかったことと思います。

本ジャーナルの創刊に向けた議論は、従来型の大学紀要の復刊をイメージしたものではなく、本学の教職員でオープンサイエンスとそれが求められるに至った歴史や状況を共有し、オープンサイエンスに向けた意識を醸成するFDを開催したことを直接の、また最も重要な契機として始まります。

2019年10月4日、本学学術情報センター主催のFDにおいて、講師として国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センターの尾城孝一氏と文部科学省科学技術・学術政策研究所の林和弘氏をお招きして、オープンサイエンスの歴史、世界と日本の状況と取り組みについてご講演いただきました。このFDでは本学の多くの教職員に加え、東北大学はじめ東北の国公立大学からも関係者のご参加を得て、オープンサイエンスの潮流を加速させるために個々の大学・教職員として何ができるかについて議論を行いました〔※1〕。

議論を通じて浮上したのは、商業出版に必ずしも依存しない学術情報のエコシステムを自ら作り出し維持していくことは、今後のオープンアクセスジャーナルの状況にかかわらずこれからのあらゆる研究コミュニティの責務の一つとなるであろう、ということでした。

しかしそれだけなら、本学もすでに学術機関リポジトリ〔※2〕を運用していましたし、それこそF1000 Research〔※3〕等への参加を検討することもできたでしょう。ですが、FD講演でご示唆いただいたシチズンズサイエンスと公立大学としての本学の特性・責務を考え合わせた時、さらに得られたのは、独自の媒体をもつことによって改めて大学を地縁的な=超領域的な研究コミュニティとして再定義するとともに、それをプラットフォームとして研究コミュニティを地域に開いていくことができるのではないか、という着想でした。

このFDとその後の議論を通じ、研究コミュニティが自ら作り育てまたそれによって逆にコミュニティの輪郭が明確になるような媒体であるだけでなく、研究コミュニティをさらに開いていく「場」ともしていく、という明確なコンセプトを得て作業は一挙に加速し、その後、COVID-19への対応で創刊号に向けたCFPが遅れる事態はあったものの、まさにコミュニティが一丸となってなんとか2020年度中の創刊にこぎ着けることができました。

本学では2017年から図書館を「ディスカバリー・コモンズ」と呼び、全館を発見と出会いのためのコモンと捉えた活動を行っています。図書館の一部を所謂ラーニング・コモンズとする近年の標準的な大学図書館空間のあり方から、図書館自体を本来の社会的機能であるコモンとして再認識することでさらに一步を進めようとするものです。近年コモンやコモン的なあり方が脚光を浴びていますが、それはそれらがますます痩せ細り、私たちの健全な生が脅かされるまで差し迫ったものになっていることの裏返しでもあるでしょう。そしてその差し迫った状況が研究や教育においても例外ではないのは、近年のジャーナル高騰問題に端的に現れているとおりです。

地球環境や人間社会について長期的な視点で考えていくことが必要なことはいまでもありませんが、短期的な利益による評価を乗り越えてほんとうに長い時間軸で考えていくためには、一つにはやはりそれを支え守るコミュニティとその活動が形作る場であるところのコモンに再び生命を吹き込む必要があるのだらうと思います。それは決して易しいことではないかもしれませんが、私たちは、大学図書館とジャーナルの活動を通じてそれらを探り、開いてまいります。多くの皆様のご参画をお待ちしています。

※1: <https://www.myu.ac.jp/library/news/2019fd/>

※2: <https://myu.repo.nii.ac.jp/>

※3: <https://f1000research.com/>